

事務事業評価表 平成23年度

政策 豊かさ創造性を育む生涯学習環境の充実
 施策 子どもの可能性を伸ばす教育の充実
 基本事業 教育内容の充実

事業名 **小中学校学習サポート事業**

[0864]

部名	教育部	事業開始年度	平成21年度	実施計画事業認定	非対象
課名	学校教育支援室 学校教育課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>市内小中学校児童生徒</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>児童にとって分かりやすい授業を行うことで、児童の勉学意欲が向上し確かな学力の定着を図る。</p>
手段	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>市内小中学校にボランティア講師を派遣し、担当の教師と共に、チーム・ティーチングによる学習指導を行う</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度当初
対象指標1	小中学校児童生徒数	人		10,674	10,305	9,977
対象指標2						
活動指標1	ボランティアの登録人数	人		25	36	28
活動指標2						
成果指標1	年間派遣人数	人		16	29	28
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	2,049	3,681	5,652
正職員人件費 (B)		千円	0	1,660	2,015	2,444
総事業費 (A) + (B)		千円	0	3,709	5,696	8,096

費用内訳	
22年度	報償費 3,681千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	平成19、20年度の全国学力学習状況調査において、北海道が下から2番目という調査結果を受け、全道をあげて学力向上を目指しているところであるが、江別市においても、平成20年度江別市学校改善支援プランを作成し、その中で、江別市が学校に対する支援の一環として、児童・生徒の学力向上のためのボランティア等による授業サポート事業の実施を掲げた。	事業を取り巻く環境変化	
--------	---	-------------	--

22年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的(対象と意図)ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は？

児童・生徒の学力向上につながる。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

確かな学力の定着が求められており、授業中に一人ひとりの理解度に応じて指導することで、児童の学力向上につながる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでている理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は？

ティームティーチングによる学習支援ができることで、目が行き届く指導ができるようになった。

(4)成果が向上する余地(可能性)は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

ボランティア講師の登録者が増え、学校からの派遣希望の条件と合致すれば事業の拡大が見込める。

(5)現状の成果を落とさずにコスト(予算+所要時間)を削減する新たな方法はありませんか？(受益者負担含む)

ある

ない

理由
・
根拠は？

学校からの派遣希望を受け、今後はさらに対象校を増やしていくことからコストの削減は難しい。